

変わりゆく音の風景

高山 邦明（千葉市緑区在住）

「ミン、ミンミンミンミー！」、ニイニイゼミ、アブラゼミに続いて8月に入りミンミンゼミが鳴き出すと夏本番。子どもの頃は鳴き声を手がかりにして虫採り網を手にあちこちの木を探し歩いたものです。頭の中に暑さをしみ込ませるようなその声に時に「うるさい！」と叫びたくなることもあります。この声なしでは夏という感じがしません。

小山の谷津でもミンミンゼミの鳴き声は夏の風物詩です。ところが昨年あたりからその鳴き声に混じって「シャーシャーシャー・・・」という声の時折聞かれるようになりました。クマゼミです。クマゼミは元々西日本のセミで関東周辺では神奈川県西部あたりまでしか見られませんでした。近年分布を北や東へ広げていることが知られています。地球温暖化で生きものの分布が変わってきていることがささやかかれており、クマゼミもその一つかと思っていました。ところが最近見たテレビ番組で、街路樹や公園樹が移植される際に土の中に幼虫が入っていて運ばれる例が各地で報告されていることを知り驚きました。私が住むあすみが丘や勤め先の海浜幕張でも最近クマゼミの声を聞くことがありますが、いずれも局所的で街路樹と一緒に運ばれたと言われるとそんな感じがします。どこでも今のところは1~2匹が鳴いているだけなのですがその音量は体の大きさと比例してとても大きく、群れになったらミンミンゼミの鳴き声を圧倒しそうです。夏の音風景が人の手によって変わろうとしているのです。

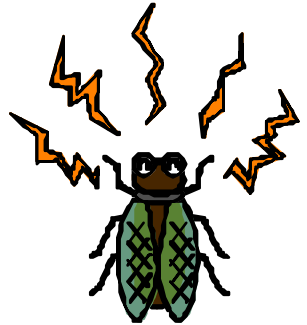
8月の後半になると夜の虫の音がにぎやかになります。エンマコオロギやオカメコオロギ、耳を澄ますとカネタタキやカントンの声に秋の訪れを感じます。ところが最近、駅前の街路樹の上から聞こえてくるのは「リーリーリー」というアオマツムシの声ばかり。蒸し暑い夜は一段と大きな声で鳴きます。会社からの帰り道に高速度道路沿いの公園を通りますがそのアオマツムシの数は半端ではなく、もう一匹一匹のリーリーは識別できず、キーンという連続した金属音が頭の上から降ってきて耳鳴りのようで思わず耳をふさぎたくなります。他の虫の声どころか車の音もかき消す騒々しさです。家のある土気では最初は駅周辺の街路樹で鳴いているだけだったのですが、あすみが丘の開発に伴って分布を広げ、今では小山の谷津や昭和の森でも夜になるとアオマツムシの声が響き渡っています。このアオマツムシ、実は明治時代に中国から渡ってきた帰化昆虫で1970年代から爆発的に分布を広げたそうです。元々、都市部の街路樹の高い場所で鳴いていたのですが、最近は都市周辺の森や草地にも進出しており、日本に昔から暮らす秋の虫の生態系への影響が心配されています。実際、アオマツムシはクマゼミと違い秋の夜の音風景をもう完全に塗り替えてしまいました。アオマツムシがにぎやかな場所ではエンマコオロギが“声”を振り絞って鳴いているように感じられます。秋の虫の声はラブソング。恋路を邪魔されたら影響は大きいでしょう。

「虫は鈴虫。ひぐらし。蝶。松虫。きりぎりす。はたおり。われから。ひを虫。螢・・・」

「・・・いみじうしたり顔に、独鈷や数珠など持たせ、蝉の声しほり出だして読みあたれど、・・・」

いずれも枕草子の一節です（「虫は」、「すさまじきもの」より）。平安の昔にも今と同じ生き物が暮らし、それに人々が気にかけていたことがわかります。詩歌にもセミや秋の鳴く虫は格好の素材となっています。車の騒音も明るい電灯もテレビもない時代、自然の音に対する感覚は一層研ぎ澄まされていたことでしょう。そんな昔の人の書き物を読んで感情を分かち合えるのは現在でも同じ自然が残っていて同じように感じるからです。音風景が変わってしまったら文化の伝承も危機にさらされてしまいます。

シャーシャーシャー、リーリーリー、と何とも耳障りなのですが、こうした音の変化を感じていない人が多いのもまた驚きです。外国人は一般的に虫の声が雑音にしか感じられず、虫の声をめでる習慣は日本人特有だということを聞いたことがあります。そんな自然への感受性が失われつつあるのではないかと心配になります。下大和田や小山のYPPの活動でもそんな自然への感受性や気づきを大切にしていきたいと思えます。





里山たんけんレポート

第92回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2007年9月2日(日) 晴れ

稲刈りの始まった谷津田のちいさな秋を探しながら散策しました。マイコアカネ、ナツアカネなどアカトンボは赤くきれいになってきました。カントウヨメナが咲き始め水田雑草のトチカガミは満開でした。ノシメトンボ、シオカラトンボ、コバネイナゴ、セミの仲間など一部の虫はたくさんいますが、オニヤンマなどは数が少なく、全体として、種も数も少ないように感じました。カエルもあまり見かけませんでした。今日は恒例のやひろ学園の環境学習も同時並行で行われました。ちょっぴりお米の勉強をしたり、サカナ捕りやザリガニ釣りを楽しんだりしました。

(参加者 大人6名; 報告:網代春男)

第76回 下大和田 YPP

「みんなでわいわい！コシヒカリの稲刈り」

2007年9月15日(土) 晴れ

もしかすると小雨、そんな天気予報だったのですがさすが YPP で朝からよい天気。ところが今回ばかりはあまりの天気の良さが裏目に出て、厳しい暑さの中大変な作業になりました。連休初日のせいか稲刈りにしては参加者が少なかったのも一人一人への負担になったのですが、それ以上に真夏並みの日差しに30分も刈るともうクラクラするので気力との戦いでした。と言っても無理して熱中症になったら大変なので休みをゆっくり取るようにしたことから、午前中に終わったのはコシヒカリ田んぼの1/3程度。予定の2時でコシヒカリ田んぼを刈り終えるのが精一杯でした。その後いつものメンバーが残ってカヤネズミ田んぼに取りかかりましたが、相変わらずの日差しになかなか刈り進まず、終わったころにはあたりが暗くなっていました。大変な作業でしたが、かわいらしいカヤネズミの姿や夕日に照らされた赤米、斜面林の上の三日月、スズムシの鳴き声と谷津田の自然を楽しむことができました。

(参加者 大人18名 小学生5名 乳幼児2名; 報告:高山邦明)

下大和田コシヒカリの脱穀

2007年9月23日(日) くもり

稲刈り以来よい天気が続いていたので脱穀をしました。脱穀機は1年でこの季節しか動かさないので毎回ちゃんと始動するか心配なのですが、ちゃんとエンジンが回ってくれてひと安心。ところが脱穀を始めると肝心のドラムが回らなくなってしまいました。あちこちチェック・調整するものの回復しないので別の機械を持ってきて使うことになりました。ところがこの脱穀機も3分の1ほど脱穀したところでストップ！1台目と同じような症状でしたが、あれこれ調整して何とかだましだまし動かす術を見つけて作業を再開。でもトラブルにすっかり時間を取られてコシヒカリが終わった時点でうす暗くなり、農林一号の脱穀は暗闇の中、ライトで照らしながらの作業になりました。全部終わったのは7時近く。長時間の作業と暗い中での緊張にみんなへとへとでした。

その後、地元の方をお願いしたコシヒカリは初すりが終わり、玄米約200kgの収穫でした。農林一号は天日で乾燥してから自前で初すりをする予定です。

(参加者 大人9名 小学生2名; 報告:高山邦明)

第26回 小山町 YPP「自然観察会」

2007年9月29日(土) 小雨

前日の残暑から一転して小雨が降る寒いくらいの天気になりました。植物の調査に来られた千葉県立中央博物館の天野誠さんと一緒に散策し、植物の見分け方をいろいろ教えていただきました。カヤツリグサの仲間の識別、イヌショウマとサラシナショウマの違いなど、ふだんは気づかないことがいろいろわかって勉強になると共に小山の自然の奥深さを改めて感じました。気温が低いせいでトンボなどは少なかったのですが、田んぼの畦でアカガエルが元気にはねていました。

(参加者 大人10名 小学生2名 幼児1名
; 報告:高山邦明)



植物の解説をする天野誠さん

キイロスズメ幼虫

写真撮影: 田中正彦

谷津田いきもの図鑑 No.10

「ジョロウグモ」

今の季節、ジョロウグモは谷津田で最も多く出会うことのできるクモです。林縁部や林内に大きな網を張り、トンボ類やバッタ類、時には甲虫類も、要するに飛翔力のある昆虫類は何でも捕食している姿を見ることができます。この大きな網は専門的にいうと馬蹄形円網と言うようです。つまり馬の蹄のように中心部がやや上にあるもので、網目は細かく、しかも横から見ると三面になっているという複雑な構造のものです。先日下大和田で、林縁から歩道にかけて見事な巣（網）が張られていました。見上げる位置にジョロウグモがいました。このクモは大変美しい姿をしています。クモは気持ちが悪い生き物の代表的なものにされていますが（私も以前はそう思っていました）よく見るととても美しい種類が多いのです。足の数が多いのも気味が悪い原因かもしれませんが考えてみればとても機能的です。細くて長い足を8本も持ち、それらを細い糸の上に正確に乗せるのだからすごいです。超能力の持ち主ですね。そのせいかわかりませんがクモの目は8個あります。（中には6個のものもあります）そしてこの美しく立派なジョロウグモはすべてメスです。同じ巣の中にはるかに小さなクモも同居していましたがこちらがオスです。このときは2匹のオスがいました。



このジョロウグモはクモの中ではもっとも知名度のある種類ではないでしょうか。美しい姿と同時にこのユニークな名前。姿を知らなくても、この名前を知っている方は多いはず。広辞苑を引くと「女郎」とは身分のある女性。若い女、または広く女性を言う。遊客に身を売る女。とありました。優雅で美しい、しかも妖しい美しさなのです。男にとってはとても魅力的な美しさなのです。しかしその本質は恐ろしい。強い時にはオスを食べてしまうこともある。絶妙なネーミングです。

大きなメス（上）と傍らにいた
小さなオス（右下）



トンボを捕食しているメス。トンボの羽の先に居候のオスがいます。

谷津田ではたくさんの種類のクモを見ることができます。ジョロウグモのような網を張り自分の棲家にし、獲物を捕らえるクモは造網性クモといえます。それに対し、ハエトリグモに代表される網を張らず獲物を捕らえるものを徘徊性のクモといえます。下大和田ではジョロウグモと並び代表される造網性の大型のクモは、コガネグモとナガコガネグモだと思います。両種類ともジョロウグモに劣らず美しいクモです。以前は3種類ともコガネグモ科に分類されていました。現在はジョロウグモだけはアシナガグモ科に分類されています。目立つ時期も場所も異なります。コガネグモを良く見かけるのは7月です。開けた草原を好みます。ナガコガネグモは8月から9月に良く見られます。水田の周辺や水路の上に巣を張ります。そしてジョロウグモは9月から10月末です。場所は前者2種と異なりやや暗い場所を好みます。林縁と林の中です。このジョロウグモの生活史を追うと、まず卵を産むのは10月中旬。卵の状態越冬します。孵化をするのが5月頃。その後メスは8回、オスは7回の脱皮をして成虫になります。その時期がちょうど今頃なのです。

肉食性であるクモは、多くの獲物を捕らえ、生態系のバランスを保つことに重要な役割をはたしています。種類を見ていくと環境の変化や季節の移ろいもわかります。優れた機能を持ちなおかつ美しい生き物です。どうか嫌わずに優しい目でクモを観察して欲しいと思います。（平沼勝男）

参考文献：校庭のクモ・ダニ・アブラムシ（浅間茂・石井規雄・松本嘉幸）
写真日本クモ類大図鑑（千国安之輔）

谷津田・季節のたより

下大和田

- 9月15日（土）モズの高鳴きが谷津に響き渡る。稲刈り中にカヤネズミの姿を目撃（高山）。森に設置したホダ木からたくさんのシイタケが発生（田中）。
- 9月25日（月）サワフタギの実が熟す。中秋の名月（田中）。

小山町

- 9月8日（土）赤米が出穂。なわばりが隣接するモズが激しく鳴き交わす（高山）
- 9月17日（月）ヤマホトギスが開花（高山）。
- 9月18日（火）セリ田の雑草抜きをする。子どもを抱えたサワガニ、ヘビの脱皮ガラを見つかる。水路でオニヤンマが産卵（齊藤）。
- 9月29日（土）キバナアキギリやイヌショウマが咲く。オオアオイトトンボが飛翔（高山）。



サワフタギ

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

- ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第77回 下大和田 YPP「古代米の稲刈り」

6月24日にみんなで植えた古代米を刈ります。年末のお餅つきの緑米に黒米、赤米。今年は何れくらいとれるでしょう？ にぎやかに稲刈りをしましょう。

日時: 2007年10月27日(土) 10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴、帽子、軍手、弁当、飲み物、敷物など。

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第27回 小山町 YPP「自然観察会と古代米の稲刈り」

アシ原を元に戻した小さな田んぼに今年もお米が実りました。みんなでサクサク稲刈りをします。

日時: 2007年11月3日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物: 長靴、軍手、飲み物、敷物など

参加費: 100円(資料代など)

第94回 下大和田 11月の谷津田観察会とごみ拾い

実りの秋、木々の実も色づいています。鳥の声に耳を傾けながら谷津を散策しましょう。

日時: 2007年11月4日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停に10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター



—昨年植菌したホダ木から、たくさんのシイタケが発生した(2007年9月15日)
写真撮影: 田中正彦

編集後記 厳しい残暑の中での稲刈り、機械のトラブル続きの脱穀と今年の秋のコシヒカリの作業はなかなか大変でした。暗闇の谷津田からの帰り道、作業をふりかえるとああした方が良かった、これはやるべきでなかったと反省がいっぱいです。今年で7年めですがまだまだ学ぶところがたくさんありますね。
(高山邦明)